

意見発表者から頂いたご意見

氏名(五十音順)	府県	市町村	所属・役職等	頁
田中健雄氏	滋賀県	守山市	滋賀県外来魚有効活用研究会 代表 滋賀県モロコ・フナ養殖研究会 代表	p.1
藪田秀雄氏	京都府	宇治市	宇治・世界遺産を守る会	p.2

2005年8月22日(月)

淀川水系流域委員会「住民と委員との意見交換会(天ヶ瀬ダム再開発)」  
「意見発表」配布資料

住民意見発表者 滋賀県守山市 田中健雄(67歳)  
滋賀県外来魚有効活用研究会代表  
滋賀県モロコ・フナ養殖研究会代表  
(自営)レイクフード工房代表

「また、琵琶湖固有種魚が普通に生息できる琵琶湖にしてほしい」

1. 民間企業 60 歳定年退職者、守山市の野洲川左岸地域の農村生れ・育ち。  
子供の頃フナ・モロコが一杯獲れた。ニゴロブナのなれずし(本物の鮎寿司)や子持ちのホンモロコの素焼きのうまさは忘れられない湖国の味だ。
2. われらの宝湖「琵琶湖」は、人間生活の利便第一主義の「利水」・「治水」の琵琶湖総合開発の為、天然の巨大なダム湖となり、豊かな自然環境は修復不可能なまで破壊された。
3. 今となっては大きな犠牲を払ったお蔭で琵琶湖・淀川水系流域の「利水」・「治水」は一応確保されたと思うが、河川管理者は過大な水需要を想定して琵琶湖周辺の自然環境を破壊することになる巨大な「丹生ダム」や「大戸川ダム」事業を行なってきた。
4. それらのダムは、単に「利水」のみならず「治水」にも必要、更には琵琶湖の自然環境保全の為にも必要などとしているが、これは自然環境破壊行為の上乗せで、決して容認できない。
5. 「天ヶ瀬ダム」に就いては、新設でなく「再開発」であり、河川管理者側が言う目的は、淀川・宇治川の洪水調節、琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減、さらには京都府南部地域の新規利水の確保となっているが、瀬田川洗堰水門操作による琵琶湖固有種魚の産卵孵化時期における急激な水位変動の軽減については、下流洪水時の全閉ルールの早急な見直しを行なわないとしているが、これには納得が行かない。
6. 琵琶湖の固有種魚の漁獲量(生息量)の大幅な減少の主たる原因は、若い水産関係者が声高に叫び、滋賀県の水産行政も同調している「外来魚(ブラックバス・ブルーギル)」の食害だけではなく、1992年(平成4年)制定の瀬田川洗堰操作規則の順守による固有種魚産卵時期での急激な水位変動による産卵の干し上げによるところが大きいのだ。
7. 固有種魚の産卵行動を知っている人ならこのことはすぐ分かることだ。いわんや老熟した漁師水産行政機関職員さらには魚類研究者においておや!! 研究者は何を研究しているのか!?
8. 「天ヶ瀬ダム」を再開発する前に、瀬田川洗堰の全閉ルールの全面的かつ総合的な見直しを早急に行ない、急激な水位変動を起こさないようにするべきだ。時代が進み、治水技術、堤防構築技術も進歩しているのに、昔からの遣り方の踏襲では能がないでは無いか?!

(以上)

天ヶ瀬ダム再開発・毎秒 1,500 トン放流について(2005 年 8 月 22 日)

宇治・世界遺産を守る会  
藪田秀雄

- 1、河川管理者が、私たち住民の意見、「天ヶ瀬ダムワークの意見書」、委員会の「調査・検討をより詳細に行い」という意見を踏まえた検討結果の報告もないままに、天ヶ瀬ダム再開発実施の結論のみを出したことは遺憾である。
- 2、ダムの建設・再開発の場合、治水・利水の効果があるのは当然である。問題は、環境へのマイナス影響の発生であり、ダムの建設・再開発以外の方法を検討すべきである。他に方法がない場合においても環境への影響を極力軽減させなければならない。河川整備は治水・利水・環境を同時にクリアすることが新河川法の本質であると考えられる。
- 3、天ヶ瀬ダム再開発は、放流能力を毎秒 900 トンから毎秒 1,500 トンへ増大させることによって「洪水調節機能の向上」を図ろうとするもので、治水上の効果があることは当然である。問題は、毎秒 1,500 トン放流に対応する塔の島地区の流下能力を増大させるための河川の河床掘削による自然環境、歴史的景観の破壊である(現状は関連工事によってすでに環境・景観の破壊が進行していることを認識すべきである)。
- 4、現在の流下能力では、毎秒 1,500 トン放流はできない。無理がある。流下能力の増大と世界遺産(平等院、宇治上神社)と一体となった宇治川の歴史的景観の保全を同時に、いかに図るかが課題である。歴史的景観を破壊する河川改修には反対である。
- 5、河川管理者は、「宇治川塔の島の開削については景観を保全する観点から掘削量をできるだけ抑制するとともに、掘削の形状についても検討を行います」としている。河床掘削以外の方法の検討、掘削量を極力小さくする方法の検討が求められる。

掘削量を極力小さくするためには、河川管理者がこれまでに起こった右岸亀石周辺の宇治川埋め立て、塔の川締切堤などの撤去について検討が必要となる(委員会「見解」は、塔の川の暗渠、宇治川の部分締切、右岸遊歩道の撤去の検討を指摘している)。河床を掘削しない方法としてより根本的には、塔の島地区のバイパス・トンネル(天ヶ瀬ダムから JR 鉄橋下流まで)を検討すべきである。

バイパス・トンネルによって、塔の島地区の河床掘削をおこなわずに、環境と景観の修復・再生がはかれる。天ヶ瀬ダムの堤体にコンジットゲート 2 門を増設して 5 門の放流することによる低周波空気振動の増強の影響を避けることができる。

私たちの「天ヶ瀬ダムから宇治川 JR 鉄橋下流へのバイパス・トンネルの検討」(「質問及び意見書」04 年 8 月 6 日)に対して、河川管理者は 04 年 11 月 24 日付回答文書で「迂回トンネルについては、地形や民家の密集状況から現実的でない」と判断していますが、代替案の一つとして課題や問題点を整理して報告したい」としているが、具体的な検討内容や今後の検討結果の報告をもとめたい。
- 6、住民意見の反映に関して、委員会は「宇治川の歴史的・文化的景観に配慮して河床の掘削量をできるだけ抑えるとともに、過去の景観との対比を通じた新たな景観の創出を目指す改修計画を地域住民とともに構築することが重要である」と指摘し、私たちは、「世界遺産と一体となっ

た「新たな景観の創出を目指す改修計画を地域住民と構築する」ためのシステムが必要で、「地域住民、市民団体が参加する『宇治川委員会』」(仮称)の設置が必要と提案してきた。

河川管理者は、掘削方法について、「宇治川塔の島周辺景観検討会(仮称)」を開催して検討しているが、掘削方法についてだけ検討するのではなく、「世界遺産と一体となった宇治川の新たな景観の創出を目指す改修計画を地域住民と構築する」ための検討会とすべきである。住民の参画が保障されなくてはならない。

委員は広く住民に公募すべきである(私たちは参画の意思がある)。河川管理者の考えはどうか。

#### 7、「淀川水系 5 ダムについての方針、天ヶ瀬ダム再開発」と「調査検討結果のとりまとめ」の疑問点。

管理者は「淀川水系の治水の根本的な課題の一つとして、見直しも含め瀬田川洗堰の全閉ルールのある方について検討してゆく」としている。琵琶湖の治水・利水・環境面から瀬田川洗堰の操作規則の見直し検討が課題となっているが、その検討結果が出ていない中で、瀬田川洗堰の放流量だけが決まるというのは合点がゆかない。

「宇治川塔の島地区の改修規模は 1,500m<sup>3</sup>/秒なので、琵琶湖から放流できる最大量も 1,500m<sup>3</sup>/秒になる」(審議資料 1-6-3「天ヶ瀬ダム再開発の調査結果(とりまとめ)」10 ページ)としている。琵琶湖から毎秒 1,500 トン放流する時、大戸川の流量毎秒 300 トンを考慮すると毎秒 1,800 トンが天ヶ瀬ダムに流入することになる。後期放流時の瀬田川洗堰の放流量は、本当はいくらなのか。

天ヶ瀬ダムの放流量を洪水期制限水位で毎秒 1,500 トンの放流能力を計画しているが、毎秒 1,500 トン放流すれば、下流で合流する宇治発電所の流量(毎秒 60 トン)や志津川の流量を合算すると宇治橋付近での基本計画高水量毎秒 1,500 トンを超える。問題でないのか。

審議資料 1-6-3 の「天ヶ瀬ダム再開発の調査検討(とりまとめ)」の 28 ページ、29 ページに掲載された宇治川の「現況写真」は 1,500 トン放流のための工事によってすでに大きく様変わりした後の写真である。0.8m 掘削時のフォトモンタージュとの比較は、関連工事実施以前の状況写真と比較することが天ヶ瀬ダム再開発による影響を正確に認識する時に必要である。大きく様変わりしてしまった現況とさらなる工事による予測のフォトモンタージュの比較という手法は、意図的であるなしを問わず、天ヶ瀬ダム再開発による自然・歴史的景観の破壊・変化を小さく見せてしまう危険性がある。

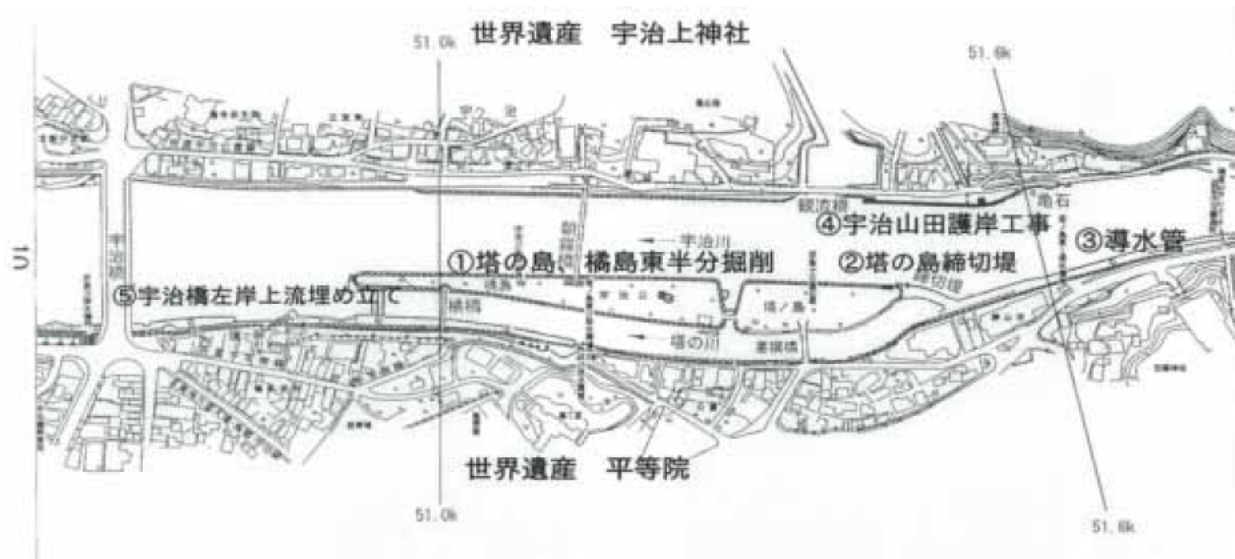
以上

淀川水系流域委員会委員と住民の意見交換会 説明資料 2005 年 8 月 22 日

宇治・世界遺産を守る会 藪田秀雄

天ヶ瀬ダム再開発・毎秒 1500 トン放流の関連工事による環境・歴史的景観の破壊の進行  
すでに実施された工事の検証が必要です。

宇治川 塔の島地区



①塔の島・橋島の東半分掘削



左 昭和 40 年頃の塔の島周辺。砂洲に人々が下りて遊んでいる。右 平成元年頃。直線化され、45 度の急傾斜面の護岸。砂洲は消滅。

45 度の急斜面の護岸は落下すれば上がれない(過去に転落・死亡事故)。改善が必要。



塔の川締切堤



2000(平成 12)年建設、工事費用 2 億円。  
導水管から毎秒 3 トンの流入水。塔の川  
は藻が異常繁殖して悪臭も発生。  
毎年 500 万円かけて藻を撤去。鵜飼舟も  
塔の川から本川へ出て行けなくなった。  
締切堤を撤去すればいくら流下能力を上  
げることができるのか。

宇治川左岸の導水管



天ヶ瀬吊り橋から塔の川まで導水管敷設、  
工事費用は 12 億円。



導水管敷設(12 億円)と天ヶ瀬ダム大トン  
ネル工事用の道路拡幅工事(2002、3(平成  
14、15)年、約 3 億円)によって様変わりし  
た白川浜(宇治川左岸)。護岸は石とコンク  
リートで固められた。

④亀石周辺 護岸工事という名の宇治川埋め立て



流下能力が一番小さな亀石周辺を埋め立て工事、費用3億円。

清流の中にあった亀石は工事によって水が滞留し、汚水の悪臭がする。亀石周辺は石とコンクリートで固められ景観台無し。

何を目的とした埋め立てか。

埋め立てを撤去すれば流下能力をいくら上げることが出来るのか。



護岸工事の名前で宇治川を埋め立て亀石付近は宇治川の流下能力が一番小さい場所



護岸工事前の亀石と護岸工事後の亀石。

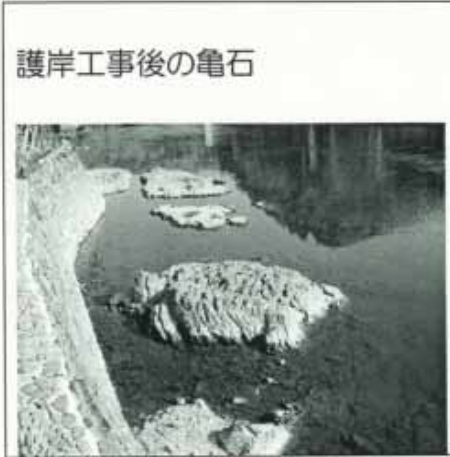


護岸工事前の亀石

亀石付近



現況写真 河道掘削関連、宇治山田護岸工事によって様変わりした亀石



フォトモンタージュ (0.8m河道掘削時) 亀石は干上がる

様変わりする亀石周辺



## 宇治橋左岸上流の宇治川埋め立て工事



何のために宇治川を埋め立てたのか、塔の川床止工事(平成4年)。ナカセコカワニナ主要繁殖地も台無しか?昔は砂洲があった。の人が座っているところが昔の岸辺。

上流に係船施設設置計画があり、景観上問題ありと地元町内会の反対で工事がストップしている。

## 2、塔の島地区の検討に関して

### 塔の島地区の河床掘削計画に関して

- ・新河川法の目的は「治水」「利水」「環境の保全」である。したがって「治水対策」と「景観保全」の二つをクリアすること。
- ・世界遺産と一体となった宇治のシンボル景観である宇治川の自然環境と歴史的景観を保全し、修復すること。
- ・塔の島地区の河床掘削計画についての検討
- ・河床掘削以外の方法の検討。
  - ・バイパス・トンネル案の検討。
- ・河床掘削を極力小さくすること。
  - ・流下能力を小さくしたかつての工事について撤去の検討。

### 「塔の島地区周辺景観検討会」のあり方について

- ・単に塔の島地区の河床の掘削方法だけを検討することで終わらせずに、世界遺産と一体となった宇治川について総合的な検討をおこなう。
- ・淀川水系流域委員会の委員を公募したことに学んで、委員を広く市民から公募すること。観光協会、遊船組合、鵜飼舟関係、町内会、宇治川に関係する団体・個人から幅広く意見を反映させる。

景観をとりもどし、子どもたちが遊べる宇治川を取り戻すことが私たちの願い

## 宇治の生命線 母なる川 宇治川

宇治市史全6巻(日本史学の林屋辰三郎教授と地理学の藤岡謙二郎教授の両氏が編集責任者となり宇治市長が発行者)の昭和53年(1978年)2月15日発行の第4巻「近代の歴史と景観」の「結章未来への展望」で次のように書かれています。

「宇治の生命線とは一体何かというならば、一貫して宇治川のながれのなかに宿されていたといえるであろう。」「宇治市の未来は、開発に名を藉りた破壊から宇治川をいかに防衛し、その両岸に生み出された文化をいかに活用していくかにかかっている。それを大前提としてはじめて未来都市を論ずることができる。」

## 宇治川は宇治市民のシンボル景観

宇治市は、2003年3月(平成13年)、「宇治市都市景観形成基本計画」で、「世界遺産の平等院および宇治上神社とその間を流れる宇治川流域一体の景観をとくに宇治市民のシンボルとして位置づけます。このシンボル景観を背景も含めて保全し、後世に引き継いでゆくことを、市民ならびに事業者および公共機関の務めとします」と決定しました。都市計画マスタープランにおいてもシンボル景観と位置づけました。

以上